

授業科目 疫学

【担当教員名】 遠藤 和男		対象学年	2	対象学科	健康
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		◎		○	
【概要・一般目標：GI0】					
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>公衆栄養学及びその実践である地域保健活動にとって、根本的な理論が「疫学」であり、いわば原理と方法論である。1年で学んだ公衆衛生学及び3年で学ぶ統計情報処理も、本来その応用である。共通するEBM(Evidence-based Medicine)の基礎について修得する。</p> <p>&lt;一般目標：GI0&gt;</p> <p>証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、その原理としての疫学的考え方をを用いて、各種疾病の特徴を理解する。</p>					
【行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。</li> <li>2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。</li> <li>3. 各種疾病の原因を説明できる。</li> <li>4. 各種疾病の予防対策を立てることができる。</li> <li>5. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	疫学とは、疫学の歴史			1	講義+小テスト、担当：遠藤 和男
2	疾患の自然史			1,2	講義+小テスト
3	感染症の疫学1			1,2	講義+グループワーク
4	感染症の疫学2			3-5	グループワーク+小テスト
5	感染症の疫学3			3-5	成果発表
6	職業病の疫学1			1,2	講義+グループワーク
7	職業病の疫学2			3-5	グループワーク+小テスト
8	職業病の疫学3			3-5	成果発表
9	公害病の疫学1			1,2	講義+グループワーク
10	公害病の疫学2			3-5	グループワーク+小テスト
11	公害病の疫学3			3-5	成果発表
12	生活習慣病の疫学1			1,2	講義+グループワーク
13	生活習慣病の疫学2			3-5	グループワーク+小テスト
14	生活習慣病の疫学3			3-5	成果発表
15	まとめ（国家試験問題の検討）			1-5	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		シンプル衛生公衆衛生学	鈴木庄亮、久道茂、編	南江堂	2013・2,400円+税・1年生の公衆衛生学で使用した。
		保健統計テキスト 改訂版	遠藤和男	考古堂	2010・2,800円+税・3年次の「統計情報処理」でも使用を予定。
参考書					
その他の資料					
【評価方法】			【履修上の留意点】		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) グループ発表の出来栄は、学生間でも相互評価する。</li> <li>2) 小テストの結果も考慮する。</li> <li>3) 主として5択問題+レポートによって評価する。</li> </ol>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回目以降のグループワークは6人×7グループを基本とする。</li> </ul>		